

＝ 笑って・泣いて ＝

好天に恵まれ仲間の皆さんも清々しい新年を迎えられたことだろう。私は久々にゆっくりとした時間をいただいた。年末には、数年ぶりに出身職場の上司、後輩と若いころから通った馴染みのお店で、しかも翌日30数年間の店の歴史に幕を閉じるというタイミングに念願の一献を交わすことができた。また、正月三が日は天候に恵まれ、元旦には次男と家の近くの神社を歩いて三社参り、3日には義父を連れて少し遠出の三社参りをし、離れて暮らす家族の健康と仲間の幸せを心込めてお祈りさせていただいた。

そして今年の始まりもまた、ニューイヤー駅伝と箱根駅伝、テレビにくぎ付けとなった3日間でもあった。監督の檄に気合を入れられ、沿道の声援に力をもらい、出場を果たせなかったメンバーの給水に思いをたぎらせ、前に前にと走る選手たち。快走し記録を更新できた人、練習の成果を出し切れず、くず折れる人、それを支える裏方やスタッフの皆さんに多くの感動を与えていただいた。「年を取ると…」と、よく言われるが涙・涙、泣いて応援のテレビ観戦であった。

そんな涙はなんで出るんだろうと、お屠蘇をちびりちびりと飲みながら調べてみると、人間が流す涙には3種類があるらしい。その涙は、ドライアイ防止や角膜保護のために常に分泌される「基礎分泌の涙」、玉ねぎを刻んだ時や目にゴミが入った時に防御のために出る「反射の涙」、そして悲しみや感動で流す「情動の涙」、という。上述の私の涙は三番目、感情の高まりで流す涙。東邦大学医学部統合生理学教授・有田秀穂先生によれば、コミュニケーションや共感を司り、脳の司令塔とも呼ばれる前頭部に位置する“前頭前野”に血流が増え、激しく興奮することから涙が出るらしい。泣くことは「心と身体を健康に導くチカラがある」ことが分かってきたという。そして、感動の涙は共感の涙ともいわれ、まさにその涙の根本には、すべて他者への共感にあるという。自分勝手に解釈するならば、労働運動は、働く仲間の思い、つまり相手の思いに立つことから始まるもの、それが職場原点の労働運動でもある。いつも・かつも（大分弁？）泣いてばかりいられないが、感動の涙は良し、年のせいではないことにしておきたい。

その「泣く」の対義語の「笑う」ことは、「笑う門には福来る」の言葉のように昔から良いことだと言われている。学説によれば、笑うことによって脳が刺激され神経へと伝わり、身体が活性化され免疫力がアップするとか、腹式呼吸による効果によって副交感神経の働きを助けて自律神経を整え、また笑うと横隔膜を鍛えることが出来るので肺の強化にもつながるとのことであり、心にも体にも良薬であることは間違いない。そして、なにより、みんなの笑顔は明日の元気につながるもの。少しでもそんな姿を形づくっていける運動を進めていかなければならない。

迎えた2020年、取り巻く環境は、かつてなく厳しい状況におかれているが、組合員とその家族の幸せ追求、そして働く仲間の安全・安心・安定を確立していくために、1月6日より中央本部は始動した。A P20 春季取り組み、政策実現活動の総括と今後の取り組み、基幹労連政策の実現に向けた政治とのかかわり方など、軸をぶらさぬ取り組みを進めていかなければならない。

今年の干支は子。ねずみは多くの子供を産むことから「繁栄の象徴」とされている。そして十二支の第1番目。基幹労連の真のリスタートを期し、仲間の安全・健康を礎に、みんなで光明を切り開き、笑顔で、いい涙を流せる一年にしたいものである。

ご安全に

2020年1月6日

日本基幹産業労働組合連合会
中央執行委員長 神田 健一